

研究報告書第31号

|           |
|-----------|
| K 1 - 0 1 |
|           |
|           |

# 生徒の地域活動に関する中学校教師の意識

1 9 8 4 . 3

山 形 県 教 育 セ ン タ ー

1984年3月刊

## 生徒の地域活動に関する中学校教師の意識

山形県教育センター

### 目 次

- I 調査研究のねらい
  - II 調査研究の意図と方法
    - 1. 調査研究の意図
    - 2. 調査の手順
    - 3. 対象者の属性
  - III 生徒の地域活動に関する教師の意識 — 調査結果の分析と考察 —
    - 1. 中学生の現状からみた教育の課題と地域活動
      - (1) 中学生の現状からみた教育の課題
      - (2) 教育の課題と地域活動
    - 2. 子どもたちの地域活動に対する教師の対応
      - (1) 地域活動に対する関心
        - ア. 地域社会での活動の場について
        - イ. 地域活動に関する体験
      - (2) 地域活動に対する指導
        - ア. 地域の行事への子どもの参加について
        - イ. 行事の企画・運営について
      - (3) 地域活動に積極的な意識をもつ教師
    - 3. 地域活動の活性化と学校の対応
  - IV 調査研究の要約と今後の課題
    - 1. 研究の要約
    - 2. 今後の課題
- 資料編
- 1. 「中学生の地域における活動に関する教師の考えについての調査」調査票
  - 2. 同上 集計結果

## 調 査 研 究 の 概 要

### 1. 調査研究のねらい

心身の発達上きわめて重要な時期にある中学生の人格形成には、学校教育だけでなく、地域社会や家庭などの学校外での教育機能の果たす役割が重視されている。今日の中学生は地域社会での生活体験が少なくなり、地域社会での活動の活性化の必要性が指摘されている。そこで、中学生の教育に大きな影響をもつ教師が、生徒の地域社会での活動に関してどのような考えをもっているかを明らかにする。

### 2. 調査の対象と方法

#### (1) 調査の対象

県内の中学校教員を母集団として、そこから抽出した 510 人の教員（30 校）

#### (2) 調査の方法

調査票を対象校（対象者）に郵送し、記入済みのものを返送してもらう方法

#### (3) 調査項目

中学生の現状からみた教育の課題と地域活動、中学生の地域活動に対する教師の対応、地域活動に対する教師のかかわり、学校の教育活動と地域活動との関連

### 3. 調査結果からいえること

#### (1) 中学生の現状から、教師の考えている教育上の課題はつぎの3点である。

ア. 子どもたちが主体的に考え、仲間とともに実践していく場を多くすること イ. 地域の人びととふれあう場を多くすること ウ. 自然に接し、自然の中で活動する場を多くすること

これらの課題を達成するために、子どもたちに地域活動の体験をもたせることが必要であると考えている教師が多く、土曜日の午後や日曜日に行われる地域の行事には、生徒を積極的に参加させようとしている教師が多い。

#### (2) 子どもたちの地域社会での活動の場である学校外の各種の行事については、積極的に知ろうという教師は少ない。教職経験年数によって差があり、経験年数の少ない教師ほど関心がうすい。

#### (3) ほとんどの教師は成長の過程で地域活動を体験しており、地域での行事に協力する姿勢をもっている。しかし、これまで地域での行事に参画したことのある教師は約半数であり、考え方と実際の行動には差がみられる。

#### (4) 子どもたちの地域活動の活性化を図るために、社会教育関係者と協力していくことが必要であると考えている教師が約7割である。また、学校の教育活動の中で地域活動にかかわることを指導していかなければならないと考える教師が2割をこえる。

#### (5) 子どもの健全育成のために、地域活動を活性化することが必要であると考えている教師が多い。

### 4. 今後の課題

生徒の地域活動の活性化を図るため、①教師の具体的・実践的対応のあり方 ②学校経営の視点から、学校と地域社会との連携のあり方 ③在学青少年に対する社会教育の振興策 ④生徒の生活実態調査、健全育成方策の樹立、学校教育と社会教育の具体的連携のあり方などが今後の課題として想定される。

## は じ め に

子どもたちは、多くの人びととの交流をとおして、いろいろなことを学びながら成長していくものである。子どもたちの円満な成長のためには、豊かな生活体験をもたせることが必要である。子どもたちの生活の場である家庭・学校・地域社会が、それぞれの教育機能を発揮し相互に補完しあうことによって、子どもたちの豊かな人格を培うことができる。

現在の子どもたちの生活にはかたよりがみられ、学校以外の場における生活体験がすくなくなってきたが、家庭や地域は子どもたちにとって重要な教育環境であり、これらの教育機能の果たす役割も少なくはない。子どもの教育の中核的存在である学校が、学校以外の教育力を無視することなく、それらとの結びつきを強めながら、子どもたちの健全育成のために努力することが望まれる。

そこで、当教育センターでは、学校の教育活動と児童・生徒の地域社会での活動との関連を強めるための指針を得るために、中学校の教師を対象にして「生徒の地域活動に関する意識」を調査した。

本書は、その調査結果の報告書である。調査によって得た資料をもとに、生徒の地域活動に関する教師の考え方を明らかにし、いくつかの課題を提示した。いろいろな角度からご検討いただくとともに、教育実践の基礎資料としてご活用いただければ幸いである。

最後に、本調査にご協力くださった各学校および先生方に、心からお礼を申しあげる。

昭和59年 3 月

山形県教育センター所長

五十嵐 和 夫

## 目 次

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| I 調査研究のねらい .....                    | 1  |
| II 調査研究の意図と方法 .....                 |    |
| 1. 調査研究の意図 .....                    | 1  |
| 2. 調査の手順 .....                      | 3  |
| 3. 対象者の属性 .....                     | 4  |
| III 生徒の地域活動に関する教師の意識 — 調査結果の分析と考察 — |    |
| 1. 中学生の現状からみた教育の課題と地域活動 .....       | 5  |
| (1) 中学生の現状からみた教育の課題 .....           | 5  |
| (2) 教育の課題と地域活動 .....                | 6  |
| 2. 子どもたちの地域活動に対する教師の対応 .....        | 7  |
| (1) 地域活動に対する関心 .....                | 7  |
| ア. 地域社会での活動の場について .....             | 7  |
| イ. 地域活動に関する体験 .....                 | 8  |
| (2) 地域活動に対する指導 .....                | 9  |
| ア. 地域の行事への子どもの参加について .....          | 9  |
| イ. 行事の企画・運営について .....               | 9  |
| (3) 地域活動に積極的な意識をもつ教師 .....          | 9  |
| 3. 地域活動の活性化と学校の対応 .....             | 11 |
| IV 調査研究の要約と今後の課題 .....              |    |
| 1. 研究の要約 .....                      | 13 |
| 2. 今後の課題 .....                      | 14 |

### 資料編

|                                            |    |
|--------------------------------------------|----|
| 1. 「中学生の地域における活動に関する教師の考えについての調査」調査票 ..... | 16 |
| 2. 同上 集計結果 .....                           | 22 |

### 研 究 担 当 者

|      |   |   |   |
|------|---|---|---|
| 指導主事 | 杉 | 沼 | 徹 |
| 〃    | 小 | 田 | 健 |
| 〃    | 佐 | 竹 | 清 |
| 〃    | 安 | 藤 | 昭 |
|      |   |   | 郎 |

## I. 調査研究のねらい

中学生の時期は、心身の発達上極めて大切な時期にある。彼らの人格形成に影響を与えるものとして単に学校教育だけでなく、家庭や地域等学校以外の教育機能の果たす役割も重視される。教育は本来、生徒の人間性豊かな人格の形成を目標とするものであり、学校教育関係者は生徒の人格形成に大きな影響を及ぼしている地域社会に無関心であってはならない。そこで、学校と地域社会のもつ教育機能との関連をさぐるために、中学生の地域社会における活動に関する教師の考えを明らかにする。

## II. 調査研究の意図と方法

### 1. 調査研究の意図

青少年の望ましい人間形成をはかるためには、乳児から幼児・少年・青年へと成長する各々の時期に心身ともに豊かに発達していくことが重要であるということは論をまたない。それぞれの時期には、達成されなければならないと考えられる発達上の課題がある。この課題が適時に達成されることによって人間性豊かな人格が形成されていくものであるという前提にたてば、課題達成に必要な条件をいかに整備し、それらの活動が十分に出来るように保障していく努力こそ、教育にかかわる者の重大な責務と思われる。

いうまでもなく、青少年の人間形成は、青少年の日常生活が営まれている家庭、学校、社会のあらゆる場において、意図的・無意図的に行われるものであり、そのうちのひとつの場だけで人間形成が行われるものではないはずである。しかしこれまで、どちらかといえば、学校教育のみが過大に評価され、大きな期待がかけられてきた傾向にあった。これからの教育のあり方を考えていくにあたって、中央教育審議会は、「人々の生涯の各時期における人間形成上及び生活上の課題と、社会の各分野における多様な教育機能とを考慮に入れることが必要である」と指摘しているが、我々が青少年の教育を考える場合においても、彼らの望ましい成長を図るための条件が全生活領域にわたって整備されることが重要であるという観点にたち、家庭、学校、社会がそれぞれの教育機能を発揮し調和を保ちながら連携を進めることが必要である。

中学生の時期は、「不安定と動揺の時期」であり、「外的世界と内的世界との矛盾・葛藤が急速に激化していく時期」でもある。発達課題上からみれば、この時期には「いろいろなことに興味や関心をもつようになり、自分で考え、自分で決めて実行しようとする。しだいに目的意識を伴う活動になり、自発的に目標を設定して活動性を発揮するようになる」のである。

最近の青少年の生活実態をみると、自然との接触や年齢の異なる仲間とのふれあい、地域の文化や世代間のふれあいの機会が不足しており、責任感、思いやり、我慢強さ、自律、自発的行動力などに欠けることがしばしば指摘されている。このような現状を考えると、全面的な発達が必要な段階にある青少年にとって、学校教育は青少年の人間形成上的一部分しかかわりをもっているに過ぎないという理解の上に、青少年の生活体験の場を家庭や学校以外の場——いいかえれば地域社会——に拡充し、その

中で展開される活動を活性化していくことが、極めて重要であると考ええる。

ここであらためて「地域社会」とは何を意味するのか考えてみる。松原治郎は次のように規定している。「地域社会は、①乳幼児から高齢者まで多様な人々が、見方を変えれば、個人が生涯を通して、②ある特定の地域空間内での定住を前提とし、日常的な生活行為を遂行していくうえで、③地域の自然的条件とのかかわりを持ち、④また生活環境施設条件を利用しつつ、⑤見慣れた人々相互の対面的接触によってつくり上げる社会であり、⑥そこにはそれらの人々の遂行している慣習的な生活過程と生活様式が生み出した共通の規範体系や文化が存在する。人々は、それらの自然や社会や文化によって行為を日常的に規制されると同時に、地域社会に共通の自然・社会・文化体験をもつことによって共感を覚え、さらにより高い結合をつくり上げていく。」<sup>⑥</sup>このような地域社会を青少年の生活の中に適切に位置づけ、地域社会での活動を推進するとともに、学校教育、家庭教育、社会教育が密接な連携をはかり、青少年の全面的な発達にむけた教育のあり方を再構築しなければならない。

しかし、前述のごとく、青少年の地域社会における活動は低調である。その要因を次の4点に整理した。

第1に、教師の考え方の問題である。教師が地域社会の教育力をどのように考えているのだろうか。地域社会での活動に教育的意義を見だしていないのではないのか。

第2に、学校経営上の問題である。学校が地域の実態と地域のもつ教育力を正しく把握し、学校の教育活動と関連させようという姿勢をもっているだろうか。

第3に、活動が展開される地域社会そのものの問題である。地域社会には、青少年の発達課題を達成するための条件がいまだ整備されていないのではないだろうか。各時期にふさわしい学習（活動）内容や学習方法が未整備であり、それらの活動を行う場や指導体制上に問題があるのではないのか。いいかえれば、社会教育の側に青少年の地域活動を保障するだけの条件が整っていないのではないのか。

第4に、青少年の親を含めた地域の住民の意識の問題である。青少年の人間形成のために、地域社会での活動が大きな意義があることを理解していないのではないのか。また、住民自身にも地域社会の形成者としての意識に欠けている面があるのではないのか。

「学校の教育活動と児童・生徒の地域活動との関連について」の研究をすすめるにあたって、上記の4点の問題性を論究しなければならないと考えている。研究の第1年次として、第1の要因として提示した教師の教育観と児童・生徒の地域活動との関連を研究課題とし、特に、地域での活動が低調であるといわれている中学生に焦点をあて、「中学生の地域における活動に関する教師の考え」を究明することにする。

具体的には、次の観点から教師の考えを明らかにしていく。

(1) 中学生の現状からみた教育の課題と生徒の地域活動がどのような関連があるのか。このことについては、教師の考えの中で、生徒の地域活動がどのような位置づけをもつかを明らかにする。

(2) 中学生の地域活動について、教師がどのように対応しているのか。このことについては、生徒に対する指導と教師自身の地域活動とのかかわりの2点から分析し、地域活動に対する教師の対応の実態を明らかにする。

(3) 中学生の地域活動の活性化をはかるためには、学校として、今後どのような方向を考えていこう

としているのか。このことについては、学校教育と社会教育との連携と学校教育活動内での取り組みという点から考察する。

以上のような観点から、本年度の調査は、中学生の地域活動に関する教師の考えを明らかにしようとしたものである。

## 2. 調査の手順

### (1) 調査方法の設定

意識調査を実施するために、次の事項について検討した。

- ① 調査項目と調査票
- ② 調査対象者
- ③ 調査期間
- ④ 調査方法と集計方法

### (2) 調査の実施

#### ① 調査項目の設定

中学生の地域活動に関する教師の考え方を明らかにするために、次の調査項目を設定した。

- ア. 中学生の現状からみた教育の課題と地域活動
- イ. 中学生の地域活動に対する教師の対応
- ウ. 地域活動に対する教師自身のかかわり
- エ. 学校のエ. 学校の教育活動と地域活動との関連

#### ② 調査票の作成

調査項目を基本にして、別紙のとりの調査票を作成した。

#### ③ 調査対象者の選定

この調査の対象者を県内の中学校教員とした。中学校本務教員を母集団として、必要な標本数を算出した結果、508名であった。<sup>⑥</sup> 調査に必要な標本数をベースに、地域的なバランス等を考慮に入れて県内の中学校のうち30校を抽出し、その学校に勤務する538名の教員を調査対象者とした。

#### ④ 調査の方法

別紙のような調査票を用意し、抽出した中学校に当所より直接郵送した。各学校では、全教員に配布のうえ記入してもらい、記入済みの調査票を一括返送してもらう方法によった。

#### ⑤ 調査期間 昭和58年10月15日～30日

#### ⑥ 調査票の回収状況

|       |       |
|-------|-------|
| 配布調査票 | 538票  |
| 回収調査票 | 510票  |
| 回収率   | 94.8% |

#### ⑦ 集計方法

当所のコンピューターを利用して集計した。各質問毎の単純集計を行い、その後属性(性別

教職経験年数別、職名別)とクロス集計した。また、必要に応じて、質問間のクロス集計も実施した。

## 3. 対象者の属性

本調査に回答してくださった510名の教員の属性を要約すると以下のようになる。

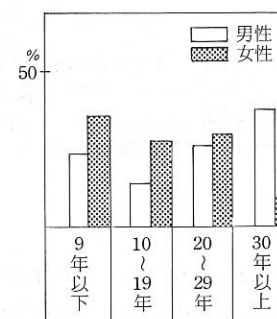
### (1) 性別構成

510名の対象者のうち、男性が327名(64.1%)であり、女性が183名(35.9%)であった。

### (2) 教職経験年数別構成

教職経験年数別では、9年以下の教員が138名(27.1%)、10年～19年の教員が98名(19.2%)、20年～29年の教員が136名(26.6%)、30年以上の教員が138名(27.1%)であった。

第1図 性別・経験年数別構成



### (3) 職名別構成

職名別では、「校長・教頭」が57名(11.2%)であり、「教諭・助教諭・講師・養護教諭」が453名(88.8%)であった。

### (4) 性別・教職経験年数別構成

性別と教職経験年数別を関連させてみたのが第1図である。男性では比較的経験年数の多い教員が多く、これに比して女性では経験年数の少ない者が多くなっている。

(注) (1) 中央教育審議会答申「生涯教育について」(昭和56年6月11日)

(2) 坂元忠芳「少年期における発達と教育」(『子どもの発達と教育』5, 1979年 岩波書店)

(3) 坂元忠芳 前掲書

(4) 社会教育審議会答申「青少年の徳性と社会教育」(昭和56年5月9日)

(5) 松原治郎「地域社会と学校教育」(『教育学大全集9 地域と教育』1983年 第一法規出版株式会社)

(6) 標本数の算出

$$n = \frac{(K\alpha)^2 P(1-P)/d^2}{1 + (K\alpha)^2 P(1-P)/Nd^2}$$

(N……母集団の人数    n……標本数    Kα……信頼度係数    d……標本誤差)  
(P……標本比率)

上記の式に数値をあてはめて計算すると、 $n = 508$ となる。

### Ⅲ. 生徒の地域活動に関する教師の意識

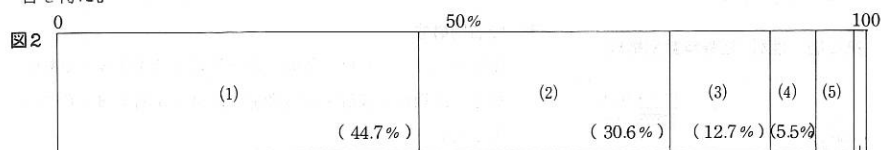
#### —— 調査結果の分析と考察 ——

ここでは調査結果をもとに、1. 中学生の現状からみた教育の課題と地域活動 2. 中学生の地域活動に対する教師の対応 3. 地域活動の活性化と学校の対応の順で分析と考察をおこなう。

#### 1. 中学生の現状からみた教育の課題と地域活動

##### (1) 中学生の現状からみた教育の課題

最近、学校教育をめぐって、さまざまな角度から論議がなされているが、直接生徒を指導している教師たちが、生徒たちをどのようにみているかを知るために「いまの子どもの状況からみて、教育上最も力を入れなければならないと考えるものは何か」（質問5）について聞いた結果、つぎのような回答を得た。



- (1) 自発性や自律性を養うため、子どもたちが自ら決定し実践する場面を多くすること  
 (2) 協力・責任・思いやり・ルールの尊重などの心を養うため、年齢の異なる仲間と活動させること  
 (3) 世代間のふれあいによる連帯感を高め、地域の生活・文化を正しく理解させるための活動をさせること  
 (4) 子どもたちの学力を向上させるため、教科の学習指導に力をいれること  
 (5) 豊かな情操を養うため、自然に親しみ、自然の中で活動させること  
 (6) 子どもたちの体位にみあった体力をつけること

上の結果をもとに、教師が考えている教育の課題について考察する。

最初に「子どもたちが自ら考え実践する場」や「異年齢集団による活動」を多くしていかなければならないと考えている教師が75%をこえる。また、少年自然の家を利用した効果については(質問19)「規律を守ったり協力しあうことの大切さ」を知らせることができたとするものが44.9%あり、「自分のことは自分ですることの大切さ」を知らせることができたとするものが22.4%であった。このことから、自発性や自律性、仲間との活動等とおして社会性をつちかうことが現在の中学生にとって大切であると考えている教師が多いといえる。そのためには、子どもたちに「自ら考え仲間と協力しながら実践していく場」をより多くもたせることが課題の一つであるといえる。

つぎに、いまの子どもたちにとって「世代間のふれあいや地域社会を理解させるための活動」が必要であるとする教師が12.7%いる。このことについては、子どもたちにとって「ふれあいのもっとも欠けているものは何か」（質問7）について「地域の人びと」とのふれあいがもっともすくないと考える教師が72%いる。さらに、地域の人びととのふれあいをもつことは「子どもたちの成長に役立つからその機会を広げていくことが必要である」（質問6）とする教師が79.2%いる。このことから、子どもたちに地域社会の一員であることを自覚させ、自分の住んでいる地域に目をむけて生活する姿勢を養うことが大切であり、地域の行事等に参加することをとおして地域の人びととのふれあいの場を広げていくことも課題であるといえる。

最後に、「自然に親しみ、自然の中で活動させること」が必要と考えている教師もいる。このことに関しては「地域社会にどのような社会教育関係団体があればよいか」（質問16）について「自然とふれあい自然を守ること」を活動内容とする団体がほしいとするものが22.1%あり、また、少年自然の家を利用して（質問19）「自然とふれあうことの大切さ」を知らせることができたとするものが14.9%あった。自然に接し自然の中での活動をとおして、豊かな情操をつちかうことは少年期における教育の課題であるが、社会状況等の変化によってその機会が少なくなっているといわれている。大都市圏に比べれば県内では自然にふれる機会は多いと思われるが、自然を正しくみる目を養い、自然と調和して生きていくことの大切さを知らせていくことも課題であるといえる。

以上のことから、教師がいまの子どもの状況から教育上の課題として考えていることは、つぎの三つにまとめることができる。

- 子どもたちが主体的に考え、仲間とともに実践していく場を多くすること。
- 地域社会の人びととふれあう場を多くすること。
- 自然と接し、自然の中で活動する場を多くすること。

##### (2) 教育の課題と地域活動

子どもたちは、いろいろな場で人びととの交流をとおして多くのことを学び人格を形成していく。円満な人格の形成のためには、いろいろな場や機会が準備され、そこでの十分な活動が保障されなければならない。

しかし、近年社会状況の変化にともなって子どもたちの生活体験はかぎられ、学校の制約をはなれた場での活動は、少なくなっているといわれている。そこで、これらの活動の活性化をはかることの必要性を各種の答申や意見具申等でも指摘している。たとえば、昭和55年3月に出された「少年期における社会教育の振興について」（山形県社会教育委員会意見具申）は、少年期における人間形成のうえで強調されなければならない具体的な課題として、①自然との接触をとおして豊かな情操や心情の陶冶をはかること ②学校外での異年齢集団での生活や活動をとおして社会的能力を陶冶すること ③地域に根ざした諸活動への積極的参加をとおして、郷土意識や連帯意識の涵養をはかること、などをあげている。

今回の調査の中にあられた教師が考えている教育の課題は、これらの答申等が指摘する課題と方向を同じくするものであり、地域社会における活動の中で満たされるものが多いといえる。少年期における全人的な人格の形成のために地域活動のもつ意義は大きいと考えられるが、教師はその必要性についてどのように考えているだろうか。

「いまの子どもたちに、地域における活動に参加することを体験させる必要があると思いますか」（質問10）との問いにたいして「どうしても体験させたい」「できるだけ体験させたい」との答えをあわせると96.3%になる。その理由（質問11）として「地域の人びととの協力、ふれあい」「地域の理解」をあげたものが95%をこえる。

これらのことから、ほとんどの教師が子どもたちに地域での活動を体験させることの必要性を感じて

おり、地域社会での活動がいまの子どもの健全育成のために、大切な要素の一つであると考えているといえる。

## 2. 子どもの地域活動に対する教師の対応

子どもの地域活動について、大半の教師はその意義を認め体験の必要性を認めている。ここでは実際の場面でどのように対応しているかを探してみたい。

### (1) 地域活動に対する関心

#### ア. 地域社会での活動の場について

子どもたちが学校外で活動する場はいろいろある。それらについて教師がどれだけ関心をもっているかを探るために、地域子ども会と市町村の社会教育課や公民館が行う行事について質問した結果はつぎのようであった。

図3 今年の夏休み中、あなたはあなたの学校の学区内の子ども会が行う行事について、事前知っていましたか。(質問1)

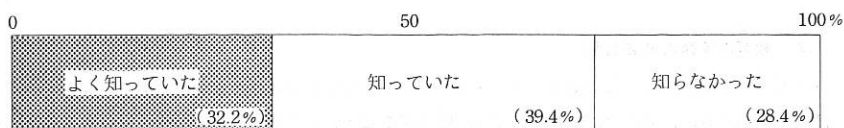


図4 どのようなことから知りましたか。(質問2)

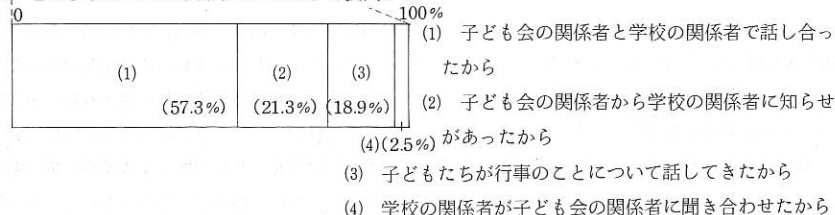


図5 あなたの学校のある市町村の社会教育や公民館の行事のなかに、子どもたちが参加できるものがあるかないかについてしらべていますか。(質問3)

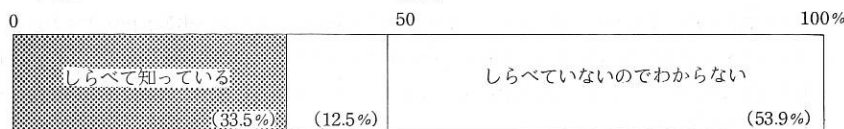
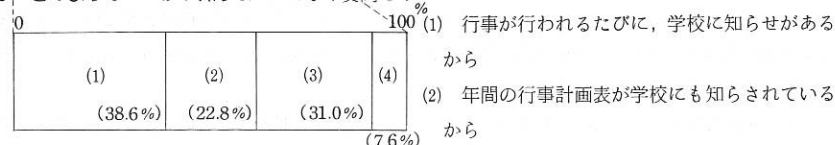


図6 どのようなことから知りましたか。(質問4)



(3) 関係ある人から折りにふれて聞くことがあるから

(4) 学校が関係ある人々に聞き合わせたり話し合ったりしているから

上の結果から、子ども会行事については71.6%、公民館等の行事については33.5%が知っていると考えている。子ども会の方が2倍以上の数になっているが、これは生徒が子ども会の会員であることから、子どもをとおして知ることが多いと思われることと、関係者同士の話し合いの場をもっている所がかなりあることによると思われる。それに比べて、市町村の社会教育課や公民館の行事については知らない教師が半数をこえる。

行事を知っていたと答えた教師がどのようなことから知ったかについては、学校から関係者に聞き合わせているものが非常に少ない。また、市町村の社会教育課や公民館の行事を調べている教師が半数以下であることから、積極的に知ろうとする姿勢をもたない教師が多いといえる。

このことについて、職名別にみると、子どもたちの学校外での活動の場については校長・教頭の方が知っている割合が高く、関心の強さを示している。しかし、子ども会行事の内容まで知っているのは56%にすぎず、学校から聞き合わせているのはわずかである。公民館等の行事については校長・教頭のほとんどがしらべているが、教諭等については「しらべていないのでわからない」とするものが60.3%あり、とくに教職経験年数9年以下では80%をこえ、関心をもつ教師がすくないことを示している。

以上のことから、子どもたちの学校外での活動の場についての教師の関心は必ずしも高いとはいえず、学校から積極的に知ろうとする姿勢も少ない。とくに、市町村の社会教育課や公民館の行事についてはしらべている教師が40%弱しかなく、これらの行事を知らないでいる教師が多いことから、行事を企画する側の広報のあり方にも課題があると思われる。これらのことについての関心は、教職経験年数が長くなるほど高くなる傾向がある。これは学校内の立場のちがいがあろうが、教師の視野の広がりを示すものと考えることができる。しかし、教師は教職経験年数に関係なく子どもに接していくわけであるから、関心のうすい教師にたいして今後どのような手だてをとっていくべきかが課題となると思う。

### イ. 地域活動に関する体験

地域活動に対する教師自身の体験の有無が関心の強さに結びつくことが多いと思われるので、このことについて質問した。

まず、教師自身の成長の過程で、中学生と同年齢のころに地域社会での活動に参加した経験をもつもの(質問8)は84.7%あり、ほとんどの教師は地域社会での活動に参加しながら成長してきたといえる。しかし、年齢による差がはっきりしており、特に教職経験年数9年以下の若い教師は26.1%しか体験をもっていない。

つぎに「住んでいる地域の公民館や子ども会の活動」に「つとめて」、「ときおり」参画した経験をもつ教師は56.1%ある(質問9)。また、地域社会への協力の姿勢について「住んでいる地域で、子ども会の球技大会が行われることになり、その企画・運営に協力をもとめられた時どうしますか」(質問17)との質問に対して「すすんで」(27.0%)「学校の仕事に余裕があれば」(40.8%)協力すると答えており、さらに消極的ではあるが「地域のことなので」協力すると答えたものを加えると98.4%になる。ほとんどの教師は地域の行事に協力するという意識をもっている。これまでの参画の経験と

今後の協力するという意識には大きな差があり、協力しなければならないと考えてはいるが、実際に参画していない教師が多いことを示しているといえる。

## (2) 地域活動に対する指導

### ア. 地域の行事への子どもの参加について

「土曜日の午後、公民館が主催する郷土理解のための『ふるさと少年教室』に参加したい」(質問12)という生徒に対して「できるだけ都合をつけて参加をすすめる、その感想をきく」とする教師が9.21%いる。また、「部活動の予定のある日曜日に、地域の運動会が行われる場合」(質問13)についても「部活動をやめて」(3.10%)「部活動を変更して」(6.51%)参加をすすめる教師が9.6%をこえる。このことから、ほとんどの教師がこれらの行事に対して積極的に参加させたいと考えているといえる。

### イ. 行事の企画・運営について

子どもたちを学校外の行事等に参加させるにあたっての「心配や不安」(質問14)については「格別ない」とする教師が4.84%であるが、「友人関係の問題」や「他の問題行動」がおきないかとの不安をもつ教師が約33%いる。また、「けがや事故」を心配する校長・教頭が17.5%あった。そこで中学生が参加する行事の企画・運営にあたっての教師の要望をきいてみたが(質問15)、時期や時間のとり方、プログラムの組み方等について「学校と話し合ってほしい」とする教師が5.24%あり、さらに行事の際の「指導体制の整備」を望む教師が3.87%あった。活動の内容については意見のわかるところであるが「中学生をリーダーとして活躍させる場の設定」(質問16)を望む教師が1.78%おり、注目したい。

以上のことから、土曜日の午後や日曜日に実施される学校外の行事については、ほとんどの教師は子どもたちに積極的に参加をすすめるとの考えをもっている。これは地域での活動の体験が子どもたちにとって必要であるとする教師の考え方を示すものである。しかし、現状では中学生の地域での活動はすくなくといわれており、教師の考え方と反する実態である。この原因の一つとして、学校外での子どもたちの活動の場をあまり知らない教師が多く、適切な指導がなされていないのではないかと考えられる。そこで、子どもたちの地域での活動を企画する立場の人々にとって、学校との話し合いをもつことが教師の理解と協力を得るために必要であろう。また、行事等の運営についてはしっかりした指導体制をつくること、そして中学生にも十分な活躍の機会のある内容にすることができれば、教師は生徒の地域活動への参加についてより積極的に指導することができるようになる。

## (3) 地域活動に積極的な意識をもつ教師

子どもたちの地域活動の活性化のためには、教師のはたす役割は大きい。そこで、どのような教師が地域活動に積極的な考え方をもちいるかを、今回のアンケートの結果から考察してみる。

まず、子どもの地域活動に対する関心をさぐするために「子どもの学校外での活動の場を知っていますか」との質問(質問1, 3)をしたが、子ども会行事、市町村の社会教育課や公民館の行事とも、今まで地域活動の体験がありそれに参画してきた教師の方が、地域活動の体験がなく参画の機会がなかっ

た教師よりも知っている割合は高く、より強い関心をもっていることを示している。また、地域活動への協力の姿勢についても、体験をもつ教師は協力の依頼に対して「すすんで協力する」と答えたものが28.5%あり、体験をもたない教師の約2倍の数値を示している。これらのことについては、これまでに地域活動に「つとめて参画してきた教師」と「ほとんど参画したことのない教師」について比較しても同様のことがいえる。

つぎに、今後の対応の仕方について、これまで地域活動に「つとめて参画してきた教師」と「ほとんど参画したことのない教師」を比較してみる。参画の経験をもつ教師は「社会教育関係者にはたつきかける」「社会教育関係者と連携していく」ことによって子どもたちの地域活動を活性化していくようにしたいと考えるものが多い。これに対して参画の経験をもたない教師は「学校教育にとり入れる」「学校では考えない」とするものが前者に比して多い。このことは、参画経験をもつ教師は、自分の体験をとおして学校外での活動の実態をよく知っており、それに対する信頼も高いことを示している。

図7 地域活動の体験・参画の経験の有無によるちがいを

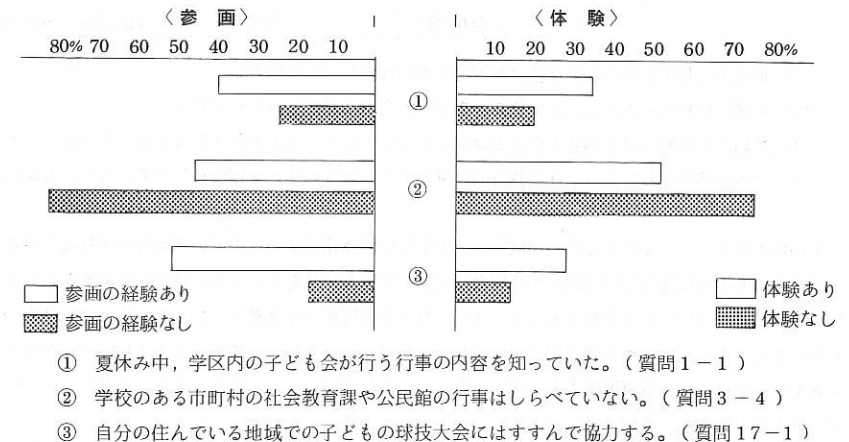
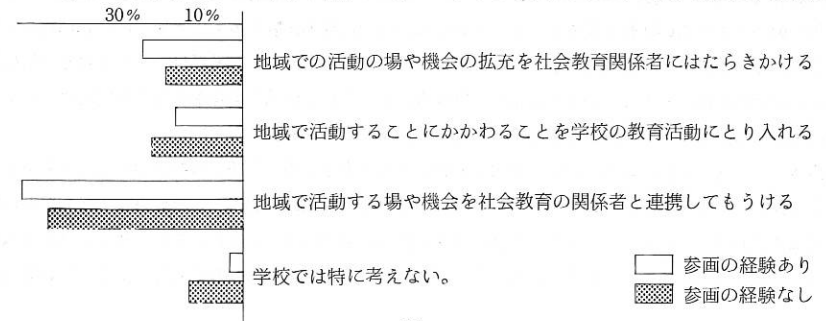


図8 いまの子どもたちは、地域で活動することが少なくなってきているといわれています。

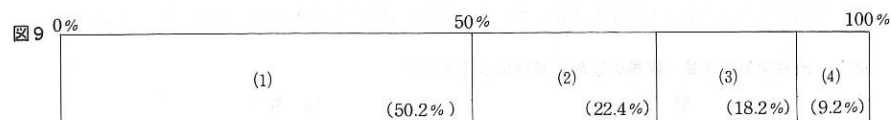
そのことにかかわって、学校の教育のなかでどうしなければならないと思いますか。(質問20)



以上のことから、教師自身の成長の過程で地域活動の体験をもち、居住地での諸活動に参画してきた教師が、それ以外の教師に比べて子どもたちの地域活動に対して積極的姿勢をもっているといえる。そこで、今後、教師に対して学校外での各種の活動に参画する機会を多くすることによって、地域活動に対する意識を高めることが必要であると思う。

### 3. 地域活動の活性化と学校の対応

いまの子どもたちの健全育成のために、子どもたちに地域社会での活動を体験させることが必要であると多くの教師は考えているが、現状では十分でない。そこで「学校の教育の中でどうしなければならぬと思いますか」（質問 20）との質問をして、学校の対応の仕方についての考えをきいた結果はつぎのようであった。



- (1) 地域で活動する場や機会を社会教育関係者と連携してもらう
- (2) 地域で活動することにかかわることを学校の教育活動にとり入れていく
- (3) 地域での活動の場や機会の拡充をはかるように、社会教育の関係者にはたらきかける
- (4) 地域で活動することは、社会教育の分野であると思うので、学校では特に考えなくともよい

上の結果をもとに、子どもたちの地域社会での活動の活性化に関する教師の考え方を考察してみる。子どもたちの地域社会での活動の場や機会は現状では十分ではなく、今後広げていく必要があると感じている教師が多い。その手だてとして、まず「社会教育関係者と連携していく」（50.2%）との考え方がもっとも多く、「社会教育関係者にはたらきかけていく」（18.2%）とする教師をあわせると 68.4%の教師は社会教育関係者との協力によって、学校外での子どもたちの活動の場を広げていくという考え方である。

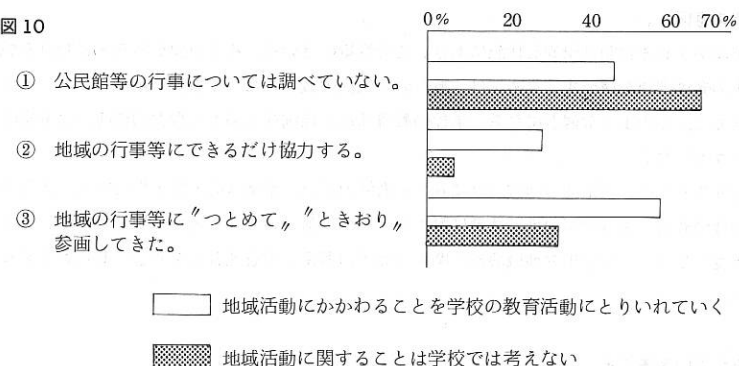
つぎに「地域で活動することにかかわることを、学校の教育活動にとり入れていく」とする教師が 22.4%あり、学校の教育活動の中で地域活動の芽を育てることが必要であると考えている。この考え方は教諭等に比べて校長・教頭に多い。また、この考え方をもつ教師は、それ以外の教師に比べて学校外での子どもたちの活動の場をよく知っているし、自分自身の体験も多く、地域での活動に対してできるだけ協力しようとする考えをもっているものが多い。この考えをもつ教師は、子どもたちの学校外での活動に強い関心をもっている人が多く、学校外での子どもたちの活動の場が十分でない現状から、学校内での指導に力を入れる必要があると考えているように思われる。

最後に「地域で活動することは社会教育の分野であると思うので、学校では特に考えなくともよい」とする教師が 9.2%ある。この考えをもつ教師は、それ以外の教師に比べて、学校外での子どもたちの活動の場を知らない人が多く、行事への参加に対する指導も消極的な人が多い。また、教師自身の地域活動への参画経験のすくない人が多い。しかし、子どもたちに地域活動の体験をもたせることが必要であ

るとする人が 7.6%あり、地域の人びととのふれあいの場を広げることが必要であると考えている人が 57.5%ある。

以上のことから、子どもたちの地域活動の活性化のためには、教師と社会教育関係者の協力が大切であるが、両者の連携の場をどのようにして設定していくかが第一の課題である。つぎに、学校の教育活動の中で地域活動にかかわることを指導することについては、学校内のどのような場でどのような内容を指導していくか、さらに学校での指導を生かしていくための学校外活動の場をどう充実していくかが課題となろう。地域の活動については学校では考えなくともよいとする教師であっても、生徒が地域の人びととのふれあいをもつことが必要であるとする人が多い。しかし、情報の不足もあって、子どもたちを参加させることについての不安や心配をもつ人が多く、現状では、自分たちが主体的にかかわることには消極的な考え方をもっていると思われる。

図 10



## Ⅳ. 調査研究の要約と今後の課題

### 1. 研究の要約

#### (1) 基本的な考え

中学生の時期は、心身の発達上極めて重要な時期にあり、学校からだけでなく家庭や地域社会で様々な影響を受け、また経験を重ねて成長している。教育は、本来、生徒の人間性豊かな人格の形成を目標とするものである。学校教育関係者は生徒の人間形成に大きな影響を及ぼしている地域社会に無関心であってはならない。そこで、学校と地域社会のもつ教育機能との関連をさぐるため、生徒の地域活動に関する教師の考えを明らかにするものである。

#### (2) 調査研究の意図

今日の中学生にかかわる問題は深刻な状況にある。この背景にはいろいろな原因があると思われるが我々は、中学生の発達課題を達成するためには、彼らの全生活領域にわたって教育が組織されることが重要であると考えた。そのような観点にたち、学校の教育活動と地域社会のもつ教育的機能との関連について究明しようとした。

このことを研究するには、①生徒の地域活動に対する教師の意識 ②地域の実態と学校経営 ③青少年の地域活動と社会教育 ④青少年の地域活動に対する住民の意識 の4つの視点が想定される。今年度は研究の初年度として、「中学生の地域活動に関する教師の考え」を意識調査を通して明らかにすることを意図した。

#### (3) 調査結果からいえること

##### ① 中学生の現状から、教師が考えている教育上の課題はつぎの3点である。

ア. 子どもたちが主体的に考え、仲間とともに実践していく場を多くすること。 イ. 地域の人びととふれあう場を多くすること。 ウ. 自然に接し、自然の中で活動する場を多くすること。

これらの課題を達成するために、子どもたちに地域活動の体験をもたせることが必要であると教師たちは考えており、土曜日や日曜日に行われる地域の行事には、生徒を積極的に参加させようとしている教師が多い。

##### ② 子どもたちの地域社会での活動の場である学校外の各種の行事については、積極的に知ろうとする教師は少ない。また、教職経験年数による差が大きく、経験年数の少ない教師ほど関心が高い。

##### ③ ほとんどの教師は成長の過程で地域活動を体験しており、地域での活動に協力する姿勢をもっている。しかし、これまで参画したことのある教師は約半数であり、考え方と実際の行動には差がみられる。

##### ④ 子どもたちの地域での活動の活性化のために、社会教育関係者と協力していくことが必要であるとする教師が約7割である。ついで、学校の教育活動の中で地域活動にかかわることを指導していかなければならないと考える教師が多い。

##### ⑤ 子ども の健全育成のために、地域活動を活性化することが必要であると考えている教師が多い。

### 2. 今後の課題

学校の教育活動と生徒の地域活動との関連についての研究を、「生徒の地域活動に関する教師の考え方」を分析考察することからすすめてきた。この調査研究を通して、いくつかの課題が感じとられる。生徒の地域活動について教師の考え方の問題だけにとどまらず、ひろい視野からおもだった課題のいくつかを提示してこの報告書の結びとしたい。

調査結果の概要で述べたように、教師は、自ら考えている教育の課題と生徒が地域で活動することの教育的価値とは緊密な関連があると考えていた。そして、生徒に地域活動を体験させる必要性も強く感じていた。また、単に必要性を感じているだけでなく、出来るだけ生徒を地域活動に参加させたいという姿勢ももっていた。しかし、このような図式(教師が地域活動の必要性を感じ、生徒の参加を積極的に指導しようとする)から想定されるほど、生徒の地域活動は活発な状況にあるとはいいがたい。

一方、「今日、学校教育をめぐる諸問題が様々に指摘されているが、これらの問題解決のためには、(略)子どもの人間形成に影響を与えている家庭や地域等学校以外の教育機能の果たす役割が極めて重視される<sup>(1)</sup>」青少年の健全育成からも、生徒の地域活動の活性化を図ることは重要な課題といえる。そういう観点から、今後次のような研究に取り組む事が要請されるだろう。

第1は、教師一人ひとりの問題である。前に述べたように、教師は生徒の地域活動に教育的価値を見出し、それに対して積極的に対応しようとしているが、それはどちらかといえば意識のレベルであって実践のレベルに達しているとはいいがたい。例えば、地域活動に協力しなければならないと考えている教師が多いが、実際にそれらの活動に参画している教師が少ない。また、生徒を地域活動に参加させようという姿勢をもっているわりには、地域に関する情報を調べようとする教師が少ない。

生徒が地域活動を行うということは、単に地域活動の意味を理解することではない。教師が生徒に対して地域活動の参加をすすめるためには、「やる気」にアプローチするためにどうしたらよいか、を自ら問い直す必要がある。意欲(やる気)についての指導は、教師が生徒に説明したり指示したりという方法や姿勢だけでは不可能と思われる。「意欲を育てるには指導者と青少年が、『ともに努力する』ということから成り立つ<sup>(2)</sup>」ものであり、地域活動についての教師の実践的取り組みが今後ますます要請されるだろう。

第2は、学校としての問題である。学校は地域社会という基盤の上に存在しており、地域社会の実態に即した教育の重要性が指摘されている今日、学校が地域社会とのかかわりの中で、自らの役割を再考する必要があると思われる。学校の教育活動が地域社会との関連でどう営まなければならないかを考慮していく必要があろう。

第3は、学校以外の公的教育の問題である。生徒の地域活動の活性化を図るには、学校教育の対応のみで解決し得るものではない。活動の基盤である地域における教育のあり方にも目を向ける必要がある。在学青少年に対する社会教育の整備拡充に努力しなければならない。このことに関しては、社会教育審議会建議「在学青少年に対する社会教育の在り方について」(昭和49年4月26日)で、基本的な方向性が提示されているが、在学青少年の社会教育に携わる者はより具体的・実践的課題に取り組む必

要性を痛感する。特に、学習内容や方法の体系化が急務と思われる。次いで、活動を促進するための場の整備や指導体制のあり方も研究課題となろう。これらの関連からいえば、「在学青少年の発達課題と社会教育活動」に関する研究が要請されているのではないだろうか。

第4は、前述の3つの問題を総合的な視点からとらえなおし、調整と連携の視点から青少年健全育成をいかに推進するかの研究が重要になってくる。

研究の意図で、青少年に対する教育は彼らの望ましい成長を図るための条件が全生活領域にわたって整備されることが大事であるとした。学校教育・社会教育・家庭教育はそれぞれのもつ独自の機能を発揮するだけでなく、個々のもつ課題を解決しながら、人間性豊かな青少年を育成するために相互の連携を深めていくことが必要になる。生徒の地域活動を活性化するために、学校教育は主体的な立場で社会教育との具体的な連携のあり方を真剣に検討する時期にきているといえる。両者が協力して、子どもの生活実態を把握したり、活動を阻害している要因を分析し、その打開策を検討するなど、具体的で実りのある連携のあり方の研究もその一つと考えられる。

- (注) (1) 中央教育審議会指導内容等小委員会審議経過報告(昭和58年11月25日、文部広報)  
(2) 坂本昇一「児童・生徒の人格形成」(『学校と地域の青少年指導』1978年 教育開発研究所)

## 資料1

昭和58年10月

### 中学生の地域における活動に関する教師の考えについての調査

山形県教育センター

#### — お 願 い —

山形県教育センターでは、生徒たちの地域における活動について、先生方の考えをまとめてみたいと思っています。学校の名称やあなた自身の名前を書く必要はありません。あなた自身やあなたの学校に迷惑をかけるようなことはありませんので、率直にお答えください。

質問は全部で20あります。どの質問でもいくつかの答えが用意されています。その中から、あなたが、日ごろ思ったり考えたりしていることに最も近いものを1つ選んで、選んだ答えの番号を□の中に記入してください。ただし、質問15、質問16、質問19では2つまで選んでください。

なお、質問の文の中に“子どもたち”とあるのは中学校の生徒たちをさしています。

質問に先だっておたずねします。

- (1) あなたは男ですか、女ですか。

1. 男                      2. 女

1  
□

- (2) あなたの教職の経験年数は何年ですか。

1. 9年以下                      2. 10年～19年  
3. 20年～29年                      4. 30年以上

2  
□

- (3) あなたのいまの職名は何ですか。

1. 校長・教頭  
2. 教諭・助教諭・講師・養護教諭

3  
□

質問 1 今年の夏休み中、あなたはあなたの学校の学区内の子ども会が行う行事について、事前に知っていましたか。

1. 行事があることと、その行事の行われ方について知っていた
2. 行事があることについて知っていた
3. 行事があることについてあまり知らなかった
4. 行事があることについてほとんど知らなかった

☐

質問 2 質問 1 で、1 の答えを選んだ方だけ答えてください。

それは、どのようなことから知りましたか。

1. 子ども会の関係者と学校の関係者で話し合ったから
2. 子ども会の関係者から学校の関係者に知らせがあったから
3. 子どもたちが行事のことについて話してきたから
4. 学校の関係者が子ども会の関係者に聞き合わせたから

☐

質問 3 あなたは、あなたの学校のある市町村の社会教育や公民館の行事のなかに、子どもたちが参加できるものがあるかないかについてしらべていますか。

1. よくしらべて、子どもたちが参加できるものが多いことを知っている
2. よくしらべて、子どもたちが参加できるものが少ないことを知っている
3. しらべてはいるが、子どもたちが参加できるものがあるかないかわからない
4. しらべていないので、子どもたちが参加できるものがあるかないかわからない

☐

質問 4 質問 3 で、1 または 2 の答えを選んだ方だけ答えてください。

それは、どのようなことから知りましたか。

1. 行事が行われるたびに、学校に知らせがあるから
2. 年間の行事計画表が学校にも知らされているから
3. 関係ある人々から折りにふれて聞くことがあるから
4. 学校が関係ある人々に聞き合わせたり話し合ったりしているから

☐

質問 5 いまの子どもたちの状況をみると、これから最も力を入れていかなければならないと考えるのはどれですか。

1. 子どもたちの学力を向上させるため、教科の学習指導に力を入れること
2. 子どもたちの体位にみあった体力をつけること
3. 自発性や自律性を養うため、子どもたち自らが考え決定し実践する場面を多くとり入れること
4. 協力・責任・思いやり・ルールの尊重などの心を養うため、年令の異なる仲間と活動させること
5. 豊かな情操を養うため、自然に親しみ、自然の中で活動させること
6. 世代間のふれあいによる連帯感を高めたり、地域の生活・文化を正しく理解させるための活動をさせること

☐

質問 6 子どもたちが地域の行事などに参加することをとおして、地域の人々とふれあったりつきあったりすることについて、あなたはどのように考えますか。

1. 子どもたちの成長に役立つと思うので、今後、そのような場や機会をひろげていきたい
2. 子どもたちの成長に役立つとは思いますが、子どもたちの生活時間などをみると、すすめることはできない
3. 子どもたちの成長にとって格別意味があるとは思わない
4. 子どもたちの学校生活におもわしくない影響があるので、参加させるべきでない

☐

質問 7 子どもは家族以外のいろいろな人たちともふれあって育っていくと言われていきます。

いまの子どもたちにとって、ふれあいの欠けているのはどれですか。

1. 先生たちとのふれあい
2. 同じ学年の友だちとのふれあい
3. ちがった学年の友だちとのふれあい
4. 地域の人々とのふれあい

☐

質問 8 あなたは、12 才～15 才のころ、学校に在学しながら次のア～ウの活動に参加した経験がありますか。

- ア 家のちかまの年上や年下の友だちとさまざまな活動をした  
イ 少年団などに加わって活動した  
ウ お祭りや共同作業などの行事に参加した

1. あ る
2. な い

☐

質問 9 あなたは、これまでに、あなたが住んでいる地域の公民館や子ども会などの活動に参画したことがありますか。

1. つとめて参画してきた
2. ときおり参画してきた
3. そんなに参画したことがない
4. ほとんど参画したことはない

☐

質問 10 あなたは、いまの子どもたちが地域における活動に参加することを体験させる必要があると思いますか。

1. どうしても体験させたい
2. できるだけ体験させたい
3. そんなに体験させなくてもよい
4. 体験させなくともよい

☐

質問11 質問10で、1または2の答えを選んだ方だけ答えてください。  
それは、どういうことからですか。

1. 地域の風土や歴史などを、体験をとおして理解することができるから
2. 地域の人々とのふれあいやつきあいができるから
3. 地域のなかで生活するには、みんなが力をあわせていかなければならないことを、体験をとおして理解できるから
4. 大人になったとき、この地域で生活しようとする気持ちを育てることができるから

14

質問12 ある土曜日の午後、公民館が地域の中学校や高等学校の生徒たちを対象として、郷土のことを理解する「少年ふるさと教室」の実施を計画しました。これを知った生徒たちは、これに参加したいと希望してきました。  
このとき、あなたはどのように指導しますか。

1. できるだけ都合をつけて参加するようにすすめ、参加してどんな感想をもったか、聞かせてくれと指導する
2. よその学校の子どもたちもくることから、部活動などがあることを理由にして、もう一度考えなおすよう指導する
3. よその学校の子どもたちもくることから、いろいろ考えて、参加を見合わせるよう指導する

15

質問13 部活動を予定していたある日曜日に、地域の人たちの運動会が行われることとなり、子どもたちから参加したいとの申し出がありました。  
このとき、あなたはどのように指導しますか。

1. 部活動をとりやめて、参加しなさいと指導する
2. 部活動の計画を変更して、できるだけ参加しなさいと指導する
3. 部活動は学校の行事だから、その方が大事であることを言い聞かせて、参加を見合わせるよう指導する

16

質問14 あなたは子どもたちが、地域の活動に参加することにかかわって、不安や心配になる気持ちを持つことがありますか。その不安や心配になる気持ちのなかみはどんなことですか。

1. 家庭での勉強にさしきわりのないだろうか
2. 学校の部活動などにさしきわりのないだろうか
3. 子どもたちの友だちづきあいに問題が起きないだろうか
4. つき合う人々が多くなることから、問題行動などを起こさないだろうか
5. けがなどの事故をひき起こさないだろうか
6. 不安や心配な気持ちになることは格別ない

17

質問15 社会教育関係の公民館や青少年育成団体などが、子どもたちを対象とする行事をするとき、配慮してもらいたいことに、どんなことがありますか。

1. 時期や時間の設定について、学校と話し合ってもらいたい
2. 行事の内容やプログラムの組み方について、学校と話し合ってもらいたい
3. 行事の運営にあたっては、きちんとした指導の体制をとってもらいたい
4. 経費については、無理のないように企画してもらいたい
5. 行事の運営にあたっては、学校の教師も参画させてほしい

18

質問16 あなたは、子どもたちの望ましい発達過程を考えると、子どもたちが参加できるどんな活動団体が地域にあればよいと考えますか。

1. 剣道やサッカーなどのスポーツ活動をおこなう団体
2. 清掃や施設慰問などの奉仕活動をおこなう団体
3. 演劇や合唱などの文化活動をおこなう団体
4. 郷土の伝統芸能などを守り育てる団体
5. 年下の子どもたちのリーダーとなって活動する団体
6. 自然とふれあい、自然を守る活動をおこなう団体

19

質問17 夏休み中に、あなたの住んでいる地域で、子どもたちを対象とする球技大会が行われることとなりました。この行事を企画運営するために、あなたの協力が求められました。

このとき、あなたはどのようにしますか。

1. できるだけ学校の仕事を都合つけて、すすんで協力する
2. 学校の仕事の余裕のなかで協力する
3. 地域のことは地域の指導者にまかせた方がよいと考えるが、地域のことなので協力する
4. 学校の仕事もあることなので、協力できないこととわる
5. 地域のことはかかわりたくないと思うから、ていねいにことわる

20

質問18 ちかごろ、少年自然の家を利用する学校がふえてきています。

あなたは子どもたちとともに少年自然の家で生活した経験がありますか。

1. しばしばある
2. あるけれども回数が少ない
3. な い

21

質問19 質問18で、1または2の答えを選んだ方だけ教えてください。

少年自然の家での生活を体験させることによって、子どもたちにどんなことを知らせることができましたか。

1. 自然に親しむことの大切さを知らせることができた
2. 規律を守ったり協力しあったりすることの大切さを知らせることができた
3. 生活するのに体力が大切であることを知らせることができた
4. 友だちや先生といっしょに生活することの大切さを知らせることができた
5. 自分のことは自分ですということの大切さを知らせることができた

22

|  |
|--|
|  |
|  |

質問20 いまの子どもたちは、地域で活動することが少なくなっていると言われてい

ます。  
そのことにかかわって、あなたは学校の教育のなかでどうしなければならないと思いますか。

1. 地域での活動の場や機会の拡充をはかるように、社会教育の関係者にはたきかける
2. 地域で活動することにかかわることを、学校の教育活動にとり入れていく
3. 地域で活動する場や機会を社会教育の関係者と連携してもらう
4. 地域で活動することについては、社会教育の分野であると思うので、学校では特に考えなくてもよい

23

|  |
|--|
|  |
|--|

ご協力ありがとうございました

## 資料2 集 計 結 果

質問1 今年の夏休み中、あなたはあなたの学校の学区内の子ども会が行う行事について、事前に知っていましたか。

|                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 1. 行事があることと、その行事の行われ方について知っていた | 32.2% |
| 2. 行事があることについて知っていた            | 39.4  |
| 3. 行事があることについてあまり知らなかった        | 17.6  |
| 4. 行事があることについてほとんど知らなかった       | 10.8  |

質問2 質問1で、1の答えを選んだ方だけ教えてください。  
それは、どのようなことから知りましたか。

|                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 1. 子ども会関係者と学校関係者で話し合ったから    | 57.3% |
| 2. 子ども会関係者から学校関係者に知らせがあったから | 21.3  |
| 3. 子どもたちが行事のことについて話してきたから   | 18.9  |
| 4. 学校関係者が子ども会関係者に聞き合わせたから   | 2.5   |

質問3 あなたは、あなたの学校のある市町村の社会教育や公民館の行事のなかに、子どもたちが参加できるものがあるかないかについてしらべていますか。

|                                        |       |
|----------------------------------------|-------|
| 1. よくしらべて、子どもたちが参加できるものが多いことを知っている     | 15.3% |
| 2. よくしらべて、子どもたちが参加できるものが少ないことを知っている    | 18.2  |
| 3. しらべてはいるが、子どもたちが参加できるものがあるかないかわからない  | 12.5  |
| 4. しらべていないので、子どもたちが参加できるものがあるかないかわからない | 53.9  |

質問4 質問3で、1または2の答えを選んだ方だけ教えてください。  
それは、どのようなことから知りましたか。

|                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| 1. 行事が行われるたびに、学校に知らせがあるから        | 38.6% |
| 2. 年間の行事計画表が学校にも知らされているから        | 22.8  |
| 3. 関係ある人々から折りにふれて聞くことがあるから       | 31.0  |
| 4. 学校が関係ある人々に聞き合わせたり話し合ったりしているから | 7.6   |

質問5 いまの子どもたちの状況をみると、これから最も力を入れていかなければならないと考えるのはどれですか。

|                                                     |      |
|-----------------------------------------------------|------|
| 1. 子どもたちの学力を向上させるため、教科の学習指導に力を入れること                 | 5.5% |
| 2. 子どもたちの体位にみあった体力をつけること                            | 1.4  |
| 3. 自発性や自律性を養うため、子どもたち自らが考え決定し実践する場面を多くとり入れること       | 44.7 |
| 4. 協力・責任・思いやり・ルールの尊重などの心を養うため、年令の異なる仲間と活動させること      | 30.6 |
| 5. 豊かな情操を養うため、自然に親しみ、自然の中で活動させること                   | 5.1  |
| 6. 世代間のふれあいによる連帯感を高めたり、地域の生活・文化を正しく理解させるための活動をさせること | 12.7 |

質問6 子どもたちが地域の行事などに参加することをとおして、地域の人々とふれあったりつきあったりすることについて、あなたはどのように考えますか。

|                                                     |       |
|-----------------------------------------------------|-------|
| 1. 子どもたちの成長に役立つと思うので、今後、そのような場や機会をひろげていきたい          | 79.2% |
| 2. 子どもたちの成長に役立つとは思いますが、子どもたちの生活時間などをみると、すすめることはできない | 19.4  |
| 3. 子どもたちの成長にとって格別意味があるとは思わない                        | 1.0   |
| 4. 子どもたちの学校生活におもわしくない影響があるので、参加させるべきでない             | 0.4   |

質問7 子どもは家族以外のいろいろな人たちともふれあって育っていきと言われています。いまの子どもたちにとって、ふれあいの欠けているのはどれですか。

|                     |       |
|---------------------|-------|
| 1. 先生たちとのふれあい       | 12.5% |
| 2. 同じ学年の友だちとのふれあい   | 3.3   |
| 3. ちがった学年の友だちとのふれあい | 12.0  |
| 4. 地域の人々とのふれあい      | 72.0  |
| 無 回 答               | 0.2   |

質問8 あなたは、12才～15才のころ、学校に在学しながら次のア～ウの活動に参加した経験がありますか。

- ア 家のちかまの年上や年下の友だちとさまざまな活動をした  
イ 少年団などに加わって活動した  
ウ お祭りや共同作業などの行事に参加した

|        |       |
|--------|-------|
| 1. あ る | 84.7% |
| 2. な い | 15.1  |
| 無 回 答  | 0.2   |

質問9 あなたは、これまでに、あなたが住んでいる地域の公民館や子ども会などの活動に参画したことがありますか。

|                  |       |
|------------------|-------|
| 1. つとめて参画してきた    | 19.6% |
| 2. ときおり参画してきた    | 36.5  |
| 3. そんなに参画したことがない | 19.6  |
| 4. ほとんど参画したことはない | 24.1  |
| 無 回 答            | 0.2   |

質問10 あなたは、いまの子どもたちが地域における活動に参加することを体験させる必要があると思いますか。

|                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. どうしても体験させたい    | 17.5% |
| 2. できるだけ体験させたい    | 78.8  |
| 3. そんなに体験させなくてもよい | 3.1   |
| 4. 体験させなくともよい     | 0.4   |
| 無 回 答             | 0.2   |

質問11 質問10で、1または2の答えを選んだ方だけ答えてください。それは、どういうことからですか。

|                                                        |       |
|--------------------------------------------------------|-------|
| 1. 地域の風土や歴史などを、体験をとおして理解することができるから                     | 12.6% |
| 2. 地域の人々とのふれあいやつきあいができるから                              | 19.7  |
| 3. 地域のなかで生活するには、みんなが力をあわせていかなければならないことを、体験をとおして理解できるから | 63.6  |
| 4. 大人になったとき、この地域で生活しようとする気持ちを育てることができるから               | 4.1   |

質問12 ある土曜日の午後、公民館が地域の中学校や高等学校の生徒たちを対象として郷土のことを理解する「少年ふるさと教室」の実施を計画しました。これを知った生徒たちは、これに参加したいと希望してきました。このとき、あなたはどのように指導しますか。

|                                                         |       |
|---------------------------------------------------------|-------|
| 1. できるだけ都合をつけて参加するようにすすめ、参加してどんな感想をもったか、聞かせてくれと指導する     | 92.1% |
| 2. よその学校の子どもたちもくるところから、部活動などがあることを理由にして、もう一度考えなおすよう指導する | 7.1   |
| 3. よその学校の子どもたちもくるところから、いろいろ考えて、参加を見合わせるよう指導する           | 0.6   |
| 無 回 答                                                   | 0.2   |

質問13 部活動を予定していたある日曜日に、地域の人たちの運動会が行われることとなり、子どもたちから参加したいとの申し出がありました。  
このとき、あなたはどのように指導しますか。

|                                                   |        |
|---------------------------------------------------|--------|
| 1. 部活動をとりやめて、参加しなさいと指導する                          | 3 1.0% |
| 2. 部活動の計画を変更して、できるだけ参加しなさいと指導する                   | 6 5.1  |
| 3. 部活動は学校の行事だから、その方が大事であることを言い聞かせて、参加を見合わせるよう指導する | 3.7    |
| 無 回 答                                             | 0.2    |

質問14 あなたは子どもたちが、地域の活動に参加することにかかわって、不安や心配になる気持ちを持つことがありますか。その不安や心配になる気持ちのなかみはどんなことですか。

|                                     |       |
|-------------------------------------|-------|
| 1. 家庭での勉強にさしきわりのないだろうか              | 2.2%  |
| 2. 学校の部活動などにさしきわりのないだろうか            | 7.3   |
| 3. 子どもたちの友だちづきあいに問題が起きないだろうか        | 8.6   |
| 4. つき合う人々が多くなることから、問題行動などを起こさないだろうか | 2 4.3 |
| 5. けがなどの事故をひき起こさないだろうか              | 8.8   |
| 6. 不安や心配な気持ちになることは格別ない              | 4 8.4 |
| 無 回 答                               | 0.4   |

質問15 社会教育関係の公民館や青少年育成団体などが、子どもたちを対象とする仕事をするとき、配慮してもらいたいことに、どんなことがありますか。

|                                      |        |
|--------------------------------------|--------|
| 1. 時期や時間の設定について、学校と話し合ってもらいたい        | 3 5.0% |
| 2. 行事の内容やプログラムの組み方について、学校と話し合ってもらいたい | 1 7.4  |
| 3. 行事の運営にあたっては、きちんとした指導の体制をとってもらいたい  | 3 8.5  |
| 4. 経費については、無理のないように企画してもらいたい         | 4.4    |
| 5. 行事の運営にあたっては、学校の教師も参画させてほしい        | 2.0    |
| 無 回 答                                | 2.7    |

質問16 あなたは、子どもたちの望ましい発達過程を考えると、子どもたちが参加できるどんな活動団体が地域にあればよいと考えますか。

|                            |        |
|----------------------------|--------|
| 1. 剣道やサッカーなどのスポーツ活動をおこなう団体 | 1 3.1% |
| 2. 清掃や施設慰問などの奉仕活動をおこなう団体   | 1 7.1  |
| 3. 演劇や合唱などの文化活動をおこなう団体     | 9.7    |
| 4. 郷土の伝統芸能などを守り育てる団体       | 1 8.0  |
| 5. 年下の子どもたちのリーダーとなって活動する団体 | 1 7.8  |
| 6. 自然とふれあい、自然を守る活動をおこなう団体  | 2 2.1  |
| 無 回 答                      | 1.9    |

質問17 夏休み中に、あなたの住んでいる地域で、子どもたちを対象とする球技大会が行われることになりました。この行事を企画運営するために、あなたの協力が求められました。

このとき、あなたはどのようにしますか。

|                                            |        |
|--------------------------------------------|--------|
| 1. できるだけ学校の仕事を都合つけて、すすんで協力する               | 2 7.0% |
| 2. 学校の仕事の余裕のなかで協力する                        | 4 0.8  |
| 3. 地域のことは地移の指導者にまかせた方がよいと考えるが、地域のことなので協力する | 3 0.6  |
| 4. 学校の仕事もあることなので、協力できないこととわる               | 1.2    |
| 5. 地域のことはかかわりたくないと思うから、ていねいにことわる           | 0.4    |

質問18 ちかごろ、少年自然の家を利用する学校がふえてきています。

あなたは子どもたちとともに少年自然の家で生活した経験がありますか。

|                 |        |
|-----------------|--------|
| 1. しばしばある       | 1 6.9% |
| 2. あるけれども回数が少ない | 5 1.8  |
| 3. な い          | 3 1.3  |

質問19 質問18で、1または2の答えを選んだ方だけ教えてください。

少年自然の家での生活を体験させることによって、子どもたちにどんなことを知らせることができましたか。

|                                      |        |
|--------------------------------------|--------|
| 1. 自然に親しむことの大切さを知らせることができた           | 1 4.9% |
| 2. 規律を守ったり協力しあったりすることの大切さを知らせることができた | 4 4.9  |
| 3. 生活するのに体力が大切であることを知らせることができた       | 2.0    |
| 4. 友だちや先生といっしょに生活することの大切さを知らせることができた | 1 4.1  |
| 5. 自分のことは自分でするということの大切さを知らせることができた   | 2 2.4  |
| 無 回 答                                | 1.7    |

質問20 いまの子どもたちは、地域で活動することが少なくなっていると言われています。

そのことにかかわって、あなたは学校の教育のなかでどうしなければならないと思いますか。

|                                                  |        |
|--------------------------------------------------|--------|
| 1. 地域での活動の場や機会の拡充をはかるように、社会教育の関係者にはたらきかける        | 1 8.2% |
| 2. 地域で活動することにかかわることを、学校の教育活動にとり入れていく             | 2 2.4  |
| 3. 地域で活動する場や機会を社会教育の関係者と連携してもうける                 | 5 0.2  |
| 4. 地域で活動することについては、社会教育の分野であると思うので、学校では特に考えなくてもよい | 9.2    |

質問1 今年の夏休み中、あなたはあなたの学校の学区内の子ども会が行う行事について、事前に知っていましたか。

1. 行事があることと、その行事の行われ方について知っていた
2. 行事があることについて知っていた
3. 行事があることについてあまり知らなかった
4. 行事があることについてほとんど知らなかった

| 属性<br>選択肢 | 職 名                   |                         | 教 職 の 経 験 年 数 |       |       |       |
|-----------|-----------------------|-------------------------|---------------|-------|-------|-------|
|           | 校<br>長<br>・<br>教<br>頭 | 教 養<br>護<br>教<br>諭<br>等 | 9 年以下         | 10 年  | 20 年  | 30年以上 |
|           |                       |                         |               | 19 年  | 29 年  |       |
| 1         | 56.1%                 | 28.9%                   | 22.5%         | 24.5% | 33.8% | 44.9% |
| 2         | 35.1                  | 39.9                    | 41.3          | 37.8  | 41.9  | 36.2  |
| 3         | 8.8                   | 18.8                    | 21.7          | 22.4  | 14.0  | 13.8  |
| 4         | —                     | 12.4                    | 14.5          | 15.3  | 10.3  | 5.1   |

質問3 あなたは、あなたの学校のある市町村の社会教育や公民館の行事のなかに、子どもたちが参加できるものがあるかないかについてしらべていますか。

1. よくしらべて、子どもたちが参加できるものが多いことを知っている
2. よくしらべて、子どもたちが参加できるものが少ないことを知っている
3. しらべてはいるが、子どもたちが参加できるものがあるかないかわからない
4. しらべていないので、子どもたちが参加できるものがあるかないかわからない

| 属性<br>選択肢 | 職 名                   |                         | 教 職 の 経 験 年 数 |       |       |       |
|-----------|-----------------------|-------------------------|---------------|-------|-------|-------|
|           | 校<br>長<br>・<br>教<br>頭 | 教 養<br>護<br>教<br>諭<br>等 | 9 年以下         | 10 年  | 20 年  | 30年以上 |
|           |                       |                         |               | 19 年  | 29 年  |       |
| 1         | 31.6%                 | 13.2%                   | 7.2%          | 13.3% | 12.5% | 27.5% |
| 2         | 63.1                  | 12.6                    | 5.1           | 10.2  | 21.3  | 34.1  |
| 3         | 3.5                   | 13.9                    | 7.2           | 19.4  | 15.5  | 10.9  |
| 4         | 1.8                   | 60.3                    | 80.5          | 57.1  | 50.7  | 27.5  |

質問8 あなたは、12才～15才のころ、学校に在学しなら次のア～ウの活動に参加した経験がありますか。

- ア 家のちかまの年上や年下の友だちとさまざまな活動をした  
イ 少年団などに加わって活動した  
ウ お祭りや共同作業などの行事に参加した

1. あ る
2. な い

| 属性<br>選択肢 | 職 名                   |                         | 教 職 の 経 験 年 数 |       |       |       |
|-----------|-----------------------|-------------------------|---------------|-------|-------|-------|
|           | 校<br>長<br>・<br>教<br>頭 | 教 養<br>護<br>教<br>諭<br>等 | 9 年以下         | 10 年  | 20 年  | 30年以上 |
|           |                       |                         |               | 19 年  | 29 年  |       |
| 1         | 94.7%                 | 83.5%                   | 73.9%         | 84.7% | 88.2% | 92.0% |
| 2         | 5.3                   | 16.3                    | 26.1          | 15.3  | 11.0  | 8.0   |
| 無回答       | —                     | 0.2                     | —             | —     | 0.8   | —     |

質問14 あなたは子どもたちが、地域の活動に参加することにかかわって、不安や心配になる気持ちを持つことがありますか。その不安や心配になる気持ちのなかみはどんなことですか。

1. 家庭での勉強にさしきわりのないだろうか
2. 学校の部活動などにさしきわりのないだろうか
3. 子どもたちの友だちつきあいに問題が起きないだろうか
4. つき合う人々が多くなることから、問題行動などを起こさないだろうか
5. けがなどの事故をひき起こさないだろうか
6. 不安や心配な気持ちになることは格別ない

| 属性<br>選択肢 | 職 名                   |                         | 教 職 の 経 験 年 数 |      |      |       |
|-----------|-----------------------|-------------------------|---------------|------|------|-------|
|           | 校<br>長<br>・<br>教<br>頭 | 教 養<br>護<br>教<br>諭<br>等 | 9 年以下         | 10 年 | 20 年 | 30年以上 |
|           |                       |                         |               | 19 年 | 29 年 |       |
| 1         | 1.8%                  | 2.2%                    | 1.5%          | 1.0% | 4.4% | 1.4%  |
| 2         | 7.0                   | 7.3                     | 8.7           | 4.1  | 6.6  | 8.7   |
| 3         | 5.3                   | 9.1                     | 5.8           | 7.2  | 10.3 | 10.9  |
| 4         | 14.0                  | 25.6                    | 31.9          | 16.3 | 23.5 | 23.2  |
| 5         | 17.5                  | 7.7                     | 9.4           | 9.2  | 9.6  | 7.2   |
| 6         | 54.4                  | 47.7                    | 42.7          | 61.2 | 44.9 | 48.6  |
| 無回答       | —                     | 0.4                     | —             | 1.0  | 0.7  | —     |

質問20 いまの子どもたちは、地域で活動することが少なくなっていると言われて  
います。

そのことにかかわって、あなたは学校の教育のなかでどうしなければならない  
と思いますか。

1. 地域での活動の場や機会の拡充をはかるように、社会教育の関係者にはたらし  
かける
2. 地域で活動することにかかわることを、学校の教育活動にとり入れていく
3. 地域で活動する場や機会を社会教育の関係者と連携してもらう
4. 地域で活動することについては、社会教育の分野であると思うので、学校では  
特に考えなくてもよい

| 属性<br>選択肢 | 職 名                   |                         | 教 職 の 経 験 年 数 |                   |                   |          |
|-----------|-----------------------|-------------------------|---------------|-------------------|-------------------|----------|
|           | 校<br>長<br>・<br>教<br>頭 | 教 養<br>護<br>教<br>諭<br>等 | 9 年 以 下       | 10 年<br>～<br>19 年 | 20 年<br>～<br>29 年 | 30 年 以 上 |
| 1         | 21.1%                 | 17.9%                   | 13.8%         | 21.4%             | 15.5%             | 23.2%    |
| 2         | 33.3                  | 20.5                    | 27.5          | 10.2              | 22.0              | 24.6     |
| 3         | 43.8                  | 51.0                    | 53.6          | 59.2              | 47.8              | 42.8     |
| 4         | 1.8                   | 10.6                    | 5.1           | 9.2               | 14.7              | 9.4      |

| 属性<br>選択肢 | 職 名                   |                         | 教 職 の 経 験 年 数 |                   |                   |          |
|-----------|-----------------------|-------------------------|---------------|-------------------|-------------------|----------|
|           | 校<br>長<br>・<br>教<br>頭 | 教 養<br>護<br>教<br>諭<br>等 | 9 年 以 下       | 10 年<br>～<br>19 年 | 20 年<br>～<br>29 年 | 30 年 以 上 |
| 1         | 21.1%                 | 17.9%                   | 13.8%         | 21.4%             | 15.5%             | 23.2%    |
| 2         | 33.3                  | 20.5                    | 27.5          | 10.2              | 22.0              | 24.6     |
| 3         | 43.8                  | 51.0                    | 53.6          | 59.2              | 47.8              | 42.8     |
| 4         | 1.8                   | 10.6                    | 5.1           | 9.2               | 14.7              | 9.4      |

昭和59年3月20日 印刷

昭和59年3月25日 発行

発行所 山形県教育センター

天童市大字山元字大倉津2,515

TEL (0236) 54-2155～9

印刷所 株式会社 大風印刷天童営業所

天童市久野本4-16-2

TEL (0236) 54-5715(代)